会　議　録

会　議　名	平成２８年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　務　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	平成２８年５月１０日（火）１８時３０分～２０時００分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川﨑京子委員 平岡良一委員		
欠　席　委　員	小林正隆委員		
事　務　局　員	コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、永井、井上 同　　はけの森美術館学芸員　中村、鈴木		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	（１）展覧会「所蔵作品展　開館１０周年記念中村研一回顧展」の観覧 （２）委嘱状の交付 （３）委員自己紹介 （４）事務局紹介 （５）正副会長互選 （６）運営協議会の運営等について （７）事業実施報告等 （８）平成２８年度の事業予定と予算について （９）その他　意見交換等　次回運営委員会日程調整		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	（１）開催した展覧会・ワークシップ等 （２）平成２８年度年間スケジュール （３）ワークショップ等アンケート結果（一式）		

平成２８年度　第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２８年５月１０日（火）

【平岡委員（館長）】　　ただいまから平成２８年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を始めたいと思います。

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この運営協議会は今年度から新しい期ということになりますので、会長が選任されるまでの間、甚だ恐縮ではございますが、当館館長を務めておりますコミュニティ文化課長の平岡のほうで、進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。以後、座って進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

では、次第に沿って進めさせていただきたいと思いますが、次第の１にございます展覧会の観覧につきましては既に皆様、お済みになられているかと思いますので、２番以降について、進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、委嘱状の交付を行います。委嘱状の交付につきましては本来、市長の西岡が直接お伺いいたしまして、お渡しすべきところでございますが、あいにく他の公務と重なっております関係から、代理といたしまして市民部長の藤本より、皆様に交付させていただきます。

部長、よろしくお願いいたします。

【藤本市民部長】　　皆様、こんばんは。所管しております市民部長の藤本です。どうぞよろしくお願いします。

本来でしたら、西岡市長のほうがこの場で、出席して、委嘱状を交付するところですけれども、課長が申しましたとおり、他の公務が入っていまして、私がかわりに委嘱状の交付をさせていただきます。

（委嘱状交付）

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございました。以上で、委嘱状の交付を終了させていただきます。

なお、市民部長の藤本については、この後、他の公務の関係から、ここで退席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【藤本市民部長】　　大変申しわけありませんが、よろしくお願いします。失礼します。

（藤本市民部長退席）

【平岡委員（館長）】　　それでは、３番の委員の自己紹介に移りたいと思います。お手数ですが、席の順に一言ずつお言葉いただければと思います。順番で恐縮ですけれども、川﨑委員から一言ずつお願いいたします。座ったままで結構です。

【川﨑委員】　　川﨑京子と申します。小金井市には９年間住んでいるんですけれども、はけの森美術館は、田中絹代さんの企画展のころに初めて訪れて、展示の内容も館の雰囲気もすごく気に入って、それ以来、足を運ぶようになりました。

美術とか写真がとても好きで、高校と大学時代は写真部で活動していて、社会人になってからも、グループ展などで写真展をしたりしていました。ギャラリーとか美術館に関心があったので、仕事をしながら学芸員の資格だけ取って、別に仕事には何もならなかったんですけれども、勉強のために資格だけ取ったりもしました。

今回、協議会に応募させていただいたのは、美術館の社会活動というのにすごく興味があったので、何かお役に立てればなと思って、応募させていただきました。よろしくお願いします。

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございます。それでは上原委員、お願いいたします。

【上原委員】　　上原佐世子と言います。もう３３年ぐらい、小金井に住んでいます。若いときは、油絵をちょっと描いてはいたんですけれども、仕事とかそういうことで離れていたんですけれども、機会があるごとに美術館に行ったり、また武蔵野の市立吉祥寺美術館に行く機会もありました。小金井市にはけの森という立派な美術館があるということで、以前も来たことはあるんですけれども、もっと市民に親しまれて、利用していただいて、ここが自分たちの生きがいになるような場所に、もっともっとなればいいなという思いで、申し込みました。どうぞよろしくお願いいたします。

【平岡委員（館長）】　　鉄矢委員、お願いいたします。

【鉄矢委員】　　鉄矢悦朗と申します。学芸大学で美術のところでデザインを教えております。デザインの中でも、立体とかまちづくりを中心にやっているんですけれども、学芸大学が美術の教員とか図工の先生を輩出するというか、一般の小学校の先生を輩出する際に、一人でも多くのそういう卒業生が、美術や美術館やまちづくりに興味を持って活動してくれると、より美術に関する人たちが行きやすくなることと、一般の人が美術に対して、もっとかかわりを持つと、もう少し優しくなれたりするのかなと思っています。

こんな中で、運営協議会にかかわっております。

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございました。

では、山村委員、お願いいたします。

【山村委員】　　東京都美術館の学芸担当課長をしています山村と申します。昨年の６月までは府中市美術館で副館長をしていて、府中市には２３年間通っていましたので、小金井はすごく親しみがあります。住んでいるところは飯能市といって、埼玉県のほうで非常に遠いんですけれども、武蔵野とかそういったところについては親しみがあって、何かお役に立てればと思っております。

自分自身の専門というか、もともとは２０世紀アメリカ美術だったんですが、３５年以上前に学芸員になって、美術館というのは、自分の専門ばっかりやっていればいいというものではなくて、この３０何年間の中でも、時代によっては、地域とか全国とかいろいろなレベルで見れば、また世界的なレベルでも違うんですけれども、随分、美術と言われる範囲が広がったような気もするし、多様になったような気もします。

美術館、また学芸員はそれに合わせて、例えば写真をお好きだとおっしゃっていたその写真についての知識も身につけなければいけないしというようなことがあって、日本近代とか西洋、ヨーロッパ、アメリカはもちろんですけれども、主に近現代が専門ですが、今現在、東京都美術館のほうでは、この間まではボッティチェリ、その前はモネ、今は若冲をやっていますので。一方で、公募団体展というのをやって、そこで年間２５０展ぐらいやっているんですね。中には、盆栽もあれば、生け花もあるし、油絵、日本画、工芸はもちろんですけれども、現代から古いものまでね。

今、そういうわけで、さまざまな種類、さまざまな芸術、さまざまな美術に対応するように、この年になって、またさらに場が広がっているという意味では、新鮮な思いで仕事に励んでいます。

小金井の美術館についても、今おっしゃった通り、市民に愛されるためには、さまざまな、その地域に合ったニーズにうまく対応しながら、素材を生かして、料理するのが学芸員だと思っていますので、いささかなりとも、それに協力できるように頑張るつもりでおりますので、よろしくお願いします。

【平岡委員（館長）】　　よろしくお願いいたします。

それでは、私のほうでも一言だけ申し上げさせていただきます。コミュニティ文化課長をしております平岡と申します。この仕事としては今年の４月から４年目に入っています。役所的に申し上げると、美術館を担当している課長が自動的に館長になるというようなこ

とになっておりますので、そういう意味では事務屋でございまして、そういう部分で、この後、紹介もさせていただきますが、当館のほうには専門の学芸員が２名と、それから今、ここにはいらっしゃいませんが、薩摩学芸顧問にサポートしていただいて運営しているというような状況になります。どうぞ、よろしくお願いしたいと思います。

もう一人、市役所の職員として教育委員会の指導室長がおりますが、他の公務の関係から、今日は欠席しております。皆様にもくれぐれもよろしくと申しておりましたので、よろしくお願いいたします。

では、３番目の委員紹介はここで終了とさせていただきまして、続いて４番目の事務局紹介をさせていただきます。本協議会の事務局としまして、先ほども申し上げましたが、学芸顧問をお願いしております薩摩先生という方がいらっしゃいます。東京芸大美術館も担当されていらっしゃいます。当館の立ち上げ以前から、この美術館にかかわっていらっしゃった経歴のある方でありまして、学芸員のサポートや技術的な部分についてのサポートを見ていただいている方であります。本日は、ご紹介だけさせていただきます。

次に、事務局の担当として、文化推進係長の永井でございます。

【事務局（永井）】　永井です。どうぞよろしくお願いします。

【平岡委員（館長）】　それから、主査の吉川です。

【事務局（吉川）】　よろしくお願いします。

【平岡委員（館長）】　それから、学芸員を紹介させていただきます。学芸員の中村です。

【中村学芸員】　中村です。よろしくお願いいたします。

【平岡委員（館長）】　同じく学芸員の鈴木です。

【鈴木学芸員】　鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

【平岡委員（館長）】　事務担当の井上については、少し外しておりますので、先に紹介のみさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本協議会ですけれども、内容については、主に学芸員から説明することが多いと思いますので、あわせて、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、５番目の正副会長互選に移りたいと思います。正副会長の選出につきましては、当館のはけの森美術館条例の施行規則第６条第１項の規定によりまして、互選によることとなっております。会長について、どなたか立候補、またはご推薦がありましたらば、お願いいたします。

山村委員。

【山村委員】　　小金井市はけの森美術館については、できる前からいろんな準備とかかなり時間をかけて設立されたという経過がありまして、鉄矢委員はそのころから、ここにかかわってらっしゃるので、この中では一番、会長にふさわしいと思いますので、推薦いたします。

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございます。ただいま山村委員より、鉄矢委員を会長にとのお話がございました。鉄矢委員を会長にお願いすることに皆様、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございます。ご異議ございませんので、鉄矢委員を会長とすることと決定いたします。

鉄矢会長から一言、ご挨拶をお願いいたします。

【鉄矢会長】　　鉄矢でございます。よろしくお願いいたします。

私、学芸員資格を取ったのが、実は薩摩先生のもとで取りまして、その後、美術館にかかわるというのも、展示、もともと建築設計のほうで、博物館の設計とかそういうほうにかかわりながら、展示とか学芸員の仕事を見ておりました。そんな関係もあって、美術館って、こうあったらいいなという部分も含めて、学芸大学にコミュニティスクールという表現で、地域に愛されて、地域に抱かれた学校というような意味合いですね。そういう意味でいうと、コミュニティ美術館のように地域に開かれて、地域とともに成長していくというか、進化していくような美術館ですね。成長していくというと、最後は衰退するが出てくるので、衰退はしてほしくないので、ずっと安定低成長でもって、そんなことを楽しめればいいかと。楽しいことが多分、一番の学びだと思っていますので。

どうぞよろしくお願いします。

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございました。

それでは、会長が選任されましたので、今後の進行については、会長にお譲りしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　それでは、引き続き副会長の選出を行います。どなたか立候補またはご推薦ありましたら、お願いいたします。

【平岡委員（館長）】　　推薦でお願いしたいんですけれども、同じく学識経験枠で委員をお願いしております山村委員を副会長に推薦いたします。

【鉄矢会長】　　ただいま平岡委員より、山村委員を副会長にとのお話がございましたが、

山村委員に副会長をお願いすることにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【鉄矢会長】　　ご異議ないようですので、山村委員を副会長とすることを決定いたします。

山村副会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

【山村委員】　　今、鉄矢会長のほうから言われたので、力及ばずですが、副会長ということで補佐をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。それでは、この後、議題に入る前に配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局（吉川）】　　配付資料の確認させていただきます。まず、委員全員にある資料のほうを確認していただきたいんですけれども、まず次第がこちらで、資料１、資料２、あと資料３があります。

あと新任委員のお二人には、クリアファイルに入っている、はけの森美術館条例と、はけの森美術館条例施行規則と。あと年報があるのですが、年報は後ほどお渡しすることにいたしまして、提言がとても厚い、クリップでとめてあるのは平成１８年の提言です。クリアファイルの中に２つ入っている提言は、平成２４年と平成２７年ということで、そちらを資料としてお渡しいたします。お時間があるときにお目を通していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

【中村学芸員】　　あと本展の、先ほど見ていただいた展覧会のチラシと、新居浜の光風会のチラシが１部ずつ入れてあります。確認ください。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。提言のほうも、運営協議会が、運営協議会を続けながら、こういうものをこういうふうに改善したらいいのではないかというふうなことを市にずっと出し続けているもので、全てが通っているわけではないです。でも、出し続けなきゃいけないものもありますので、そういった目で読んでいただけると、今、はけの森がどういう状況で、どういうことを欲しているかという形になると思います。

それでは、次の議題に進みたいと思います。６番、運営協議会の運営等について。事務局のほうで、説明をお願いします。

【事務局（吉川）】　　では、事務局のほうから、運営等について説明させていただきます。

今、会長のほうから、提言等についてのかなり詳しいお話があったと思いますが、会議

の内容については、事業の報告と今後の予定の大きく２点についての報告と説明が中心となります。

事業の報告は、前回の会議開催以降に実施した展覧会やワークショップなどの事業についての報告をさせていただくものでございまして、今後の予定については、これから予定される事業等について、事前にご説明させていただきます。それぞれ、担当の学芸員を中心にご説明させていただいた上で、委員の皆様からご意見等をいただくという形になります。

あと、この会議ですが、最初にお話をしなければいけなかったのですけれども、会議録をとりますので、恐縮ですが、録音させていただいておりますので、その辺についてはご承知おきください。会議録は発言者名を明記した全文記録になりますことと、あと会議については原則公開となりまして、傍聴も認めておりますので、会議録については後ほど印刷したものを委員の皆様に校正していただいた上で、ホームページ等で公開させていただきます。

傍聴については、時々ですが、希望があるときもありますので、ご承知おきいただければと思います。

以上です。

【鉄矢会長】　　では、次第の７番、事業実施報告ということで、これまでやってきたことについて、事務局から説明をお願いします。

【鈴木学芸員】　　それでは、今、お手元にあります資料１をごらんください。開催した展覧会・ワークショップ等について、ご報告をさせていただきます。１番が展覧会でして、所蔵作品展「開館１０周年記念中村研一回顧展」を現在、開催しております。会期が３月１９日から始まりまして、今度の５月１５日の日曜日までが会期となっております。チラシとかポスター、また展示室の掲示物などの編集・デザインなどにつきましては、学芸大学の正木先生の研究室の学生さんにも助けていただきました。平成２８年４月末現在ですが、観覧者数は大人が７１１人、子供が２７人となっています。

関連企画といたしましては、オリジナルグッズをプレゼントさせていただいています。観覧券を購入した方に、今年がちょうど開館１０周年にあたりますので、１０周年を記念したオリジナルグッズ、缶バッジやマグネットなど８種類をつくりまして、プレゼントいたしました。１人１点で先着順、数量限定のため、今はもうなくなってしまいました。こういったグッズを配って、皆様から好評いただきました。今ちょうど展示している作品を

グッズにして、プレゼントさせていただきました。

【鉄矢会長】　　この中から１個ですよね。

【鈴木学芸員】　　そうです。

【鉄矢会長】　　バッチのほうが早かったですか。

【鈴木学芸員】　　いえ、マグネットのほうが早くて。

【鉄矢会長】　　大きくて、重いものが。

【鈴木学芸員】　　そういうことからですね。なるほど。

【山村委員】　　これ、何個つくったのですか。

【鈴木学芸員】　　５００個程度だったのですけれども。

【山村委員】　　外注ですか、正木研究室ですか。

【鈴木学芸員】　　正木研究室の手づくりです。

次の２つ目のイベントとしましては、ギャラリートークを行いました。行ったのは３月２６日（土）の午後です。また５月１４日（土）に、その日はちょうど、中村研一の誕生日で、無料観覧日に当たります。ギャラリートークは観覧券があれば無料で、どなたでも参加いただけます。第１回目のものに関しては、集客が振るわなくて、観覧の方自体はいたんですけれども、ギャラリートークの参加者はお一人でした。ただ、作品について、お互いいろいろ、お話をすることができ、意見も交わせたので、お客様にはよく見ていただいたのかなというふうには考えています。

２つ目のイベントとしましては、鑑賞＋創作プログラムで、「さがして・あつめて・くっつける　中村さんの絵」というワークショップを行いました。これはスライドを見ていただきたいんですけれども、展示作品や絵本を通して、中村研一の作品に触れ合うプログラムになっています。このプログラムは、藤田百合さん、赤松さん、妹尾さんという「えほんとあそぶアートのおうち」というユニットで活動なさっている方にご協力いただきました。プログラム自体が５歳から小学２年生と保護者の方を対象として、お子様連れで、皆さんに作品を見ていただくというものなんですけれども、最初にこの２階の多目的講義室、今、皆さんがいらっしゃるお部屋で、画家はどういった活動をしているかといったようなことがわかるような絵本を読んだ後に、実際に１階の展示室に行きまして、作品を見ていくという形になりました。

そのとき、これも皆様に見ていただこうかと思うんですけれども、作品の、絵の一部を切り取ったこういったノートみたいのをつくりまして、それを見て、それが作品のどこに

あるのかを探す形となっています。

【山村委員】　　原寸なんですね。

【鈴木学芸員】　　原寸ぐらいですね。その後、２階の多目的講義室に戻ってきていただいて、今、自分たちが見た作品がどういうものであったかというのを確認した後で、ちょっとスライドの方を見ていただければと思うんですけれども、中村研一の簡単な画集を作ります。中村研一の作品をいろいろパーツで小さく切ったものを集めてコラージュして、作品にして、額縁に入れて、自分たちでも作品をつくることにしました。中村研一の作品をただ見るだけじゃなくて、実際に自分でも、作品を組み立てて遊ぶというか、いろいろな視点から作品を見ていくといったようなプログラムになります。

この参加者は１０人で、大人が４人、子どもが６人だったんですけれども、とても評判がよく、それに関しては資料３のアンケートのところにも、アンケート結果が出ておりますので、見ていただければと思っております。

【中村学芸員】　　続きまして、（２）の教育普及事業のほうの説明を聞いていただきます。

①職場訪問というので、２月１０日（水）に第二中学校１年生が職場訪問に訪れました。職場訪問というのは、ちょっと職場体験とは異なるものでして、仕事先に赴いて、どういった仕事をしているのかというのをインタビュー形式で中学生が質問してきまして、それを最後、冊子にまとめるというような内容でした。こちらは昨年も受け入れを行っておりまして、二中、近くにある中学校ですので、こういった形で就業体験とか、社会を知るための一歩として当館を利用していただけるのは、すごくいい取組かと思いまして、受け入れを行っております。

この件に関しては、写真などの資料はないので、ご報告のみになるんですが、続きまして２ページ目の②のワークショップについて、スライドを交えながら説明したいと思います。こちらのワークショップは、「封筒でつくるポケットファイル」というタイトル、つくるものそのままのタイトルなんですけれども、こちら３月１２日（土）に開催いたしました。こちらのワークショップの講師が宇田川一美さんという雑貨デザイナーで小金井在住の方で、新聞などで雑貨のコラムをされていたり、ご自身も工作の本などを出版されております。地域の文化とか、こういったアーティストの方もぜひ紹介していきたいと思いまして、宇田川一美さんを講師として、ポケットファイルというのを皆さんで製作しました。封筒を使ったワークショップというのは宇田川さんの十八番といいますか、定番のワークショップになるんですけれども、こういったビュッフェ形式で、自分の好きな材料を選び

ながらつくっていくということで、難易度も難しくはないので、皆さん一緒に進めていくものなんですけれども、材料がたくさんありますので、そこで自分の個性といったものが表現できるようなものになっています。

今回は美術館で行うということで、他館から、たくさんチラシやポスターが毎回来るんですけれども、会期が終わったものの再利用ということで、美術館のチラシとか、すてきな絵がいっぱい載っておりますので、そういったものを使ってコラージュして、ポケットファイルを製作いたしました。私がつくった見本にはなるんですけれども、大体こういったものだというのを参考までに回したいと思いますので、ごらんいただければと思います。

今回は協力として、中村文具店という地域の文房具店にも材料などのご協力をいただきましたので、こういった形で、美術館周辺の文化なども取り上げていけたらいいかなというふうに思いました。人数が６人ということで、少し参加者が少なかったので、もう少し広報に力を入れて、多くの人に参加していただけたらよかったという点が反省点です。

続きまして、③のワークショップ「詩の楽しみ方を学ぶ」について、ご報告いたします。こちらは、３月２６日（土）１時から３時で開催いたしました。このワークショップは、もともとは平成２７年度に開催しました串田孫一展の関連企画として予定していたものだったのですが、講師の方が入院されてしまいまして、開催が延期になったものでした。今回、復帰されて、春休みの時期に小学生を集めて、ぜひ詩の楽しみ方を学んでもらおうということで、開催いたしました。

串田孫一の詩はもちろんなんですけれども、谷川俊太郎とか草野心平などの詩を題材にしまして、川島環先生という方はもともと小学校の先生をされている方なんですが、南小とか本町小とか、小金井市内の小学校でも何度か授業をされている方で、小学生のファンが多いということで、私も実際、授業を南小に行って拝見したんですけれども、まず五感で詩を楽しむといいますか、最初にみんなで音読するんですけれども、リズムに乗って、みんなで詩を、詩のリズムとか言葉のおもしろさというのを楽しんで、その後に意味などを深く突き詰めていくような形で、今回、参加された１４人の方も詩を楽しんでいただきました。

すみません。先ほどの②とあわせまして、この「詩の楽しみ方を学ぶ」のアンケートの結果のほうも、資料３に記載しておりますので、後ほど目を通していただければと思います。

今回、この「詩の楽しみ方を学ぶ」のワークショップは、協力として「こごうちぶんこ

ことりのへや」という地域文庫の市民団体の方々にご協力をいただきまして、川島先生をお呼びしていただきました。こちらも市民の協力あってのイベントだと思っておりますので、今後も「こごうちぶんこ」とは、こういった形で何かワークショップなどを開催していけたらいいかなと思っております。

教育普及の報告については以上です。

【鈴木学芸員】　次に、その他として、作品貸出のご報告をさせていただきます。お手元に先ほど光風会のチラシがあったかと思うんですけれども、現在、新居浜市美術館で開催している「新居浜の美術〈昨日・今日・明日Ⅲ〉－光風会を中心に－」という展覧会で、当館の作品を貸し出しています。そのチラシに一部出ていると思うんですけれども、座像の作品とか、新居浜を描いた風景の素描の作品など、油彩２点、素描５点、合計７点が今、展示されているというところになります。

開催した展覧会・ワークショップ等の報告は以上になります。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。

では、説明も終わりましたので、何か質問、ご意見等ありましたら、お願いいたします。

では、私から。二中の１年生は、小学生のとき、ここに来た子だったりするんですか。

【中村学芸員】　そうです。来たときに私も、「ここに来たことありますか」というのを逆に質問させていただくんですけれども、「覚えてない」という子も中にはいますか、「４年生のときに来たことあります」という子は、いっぱいいらっしゃいます。

【鉄矢会長】　何を覚えていましたか。

【中村学芸員】　覚えていることが、緑地のことだったり、見た絵そのもののことをあまり覚えていなかったようなんですけれども、ここに足を運んだというのは覚えていて。

【鉄矢会長】　その後も何回か来ている感じですか。

【中村学芸員】　そこまで踏み込んで私も質問はしなかったんですけれども、近くの中学校ではあるので、裏庭に遊びに来たり、そういったことはしているようでした。

【山村委員】　今の中村研一回顧展はすごくよくまとまっていて、チラシのデザインもすごくいいですね。しゃれているし、ポスターなんかも、だんだんよくなっています。それから、展示もオーソドックスによくまとまっていると思いますが、できれば、ほかからも借りて、少し補ってもよかったかなというふうにはちょっと思いました。見たことがない絵も見たいなという感じが、少しした。それは予算の関係もあるので、なかなか難しいかと思いますが。

それから、トークとかワークショップ、アンケートを見ても、大体、市報で見たとか、あるいは知人から聞いてというのが多いと思うので、これはトーク、１人で少なかったということもあって、多分、いろんな催し物に言えるんだろうと思いますので、特に市報と、それから口コミです。これは多分、講師の人が口コミで流すとか、あるいはその講師のファンの人が口コミで流すとか、多分、何らかの法則はあると思うので、そういう部分はこれから、できるだけ生かして、やったほうがいいかなと思いますので、よろしくお願いします。

中身的にはすごくいいと思うので、そういった効果のある広報というか、人に知らせていくということについては検討してください。

以上です。

【上原委員】　市報は２週間ぐらい前ですか、見せていただきました。美術館の建物、広いですね。これだけの部屋しか使えないのかというか、もう少しほかのあいている部屋も使って、たくさんの作品を見たかったという感想はあります。

それと以前、大分前ですが、来たときには、裏庭に喫茶店があって、見た後、疲れていましたので、ケーキとかお茶も飲んで、一休みして、ああ、よかったなという感じで、野川とか散策しながら帰っていったということだったんですけれども、今回は閉まっていましたね。せっかく見て、ああ、よかったという思いを、休憩して、もう一度味わうということができなくて、少し残念だなというふうに思いました。

【川﨑委員】　教育という事業について、すごく関心が持てて。山村委員からもあったんですけれども、こういうイベントの告知というのは、例えば中学生対象、小学生からとなった場合は、それぞれ市内の小学校とか中学校にも知らせてはいかないんですか。

【中村学芸員】　お知らせはしております。チラシを紙で送っています。

【川﨑委員】　それでも、なかなか厳しいときは厳しい。

【中村学芸員】　そうですね。全員分の配付は難しくて、また、こういう展示しているので、図工専科とかそういった、こちらともつながりはある方に送ってはいるんですけれども、図工専科の先生に聞くと、チラシとかは一応、図工の教室に置いてくれるそうで、持っていってはくれるそうなんですよね。かわいいチラシとかにしておくと、小６の女の子とかは、すぐ持っていったりするというふうに聞いたんですけれども、そこからどういうふうに参加されているかというところまでは見えていないというか、広報効果がどのくらいあるのかというところまでは、追っていないというのが現状です。

【川﨑委員】　　中村文具店さんとか、ことりのへやとかも、結構親しみのあるお店屋さんとか団体だったり、何か地域に根づいて、つながりがあっていいなと思いました。

【中村学芸員】　　ありがとうございます。

【山村委員】　　「ご来場の理由は何ですか」も、ほとんど「興味ある内容だから」なんですけれども、多分、実際に情報があって、じゃ、行こうとするときには、かなり時間とか使っていくわけなので、相当、動機が強くないと、行かない。ただ興味ある内容だけじゃ、多分行かんと思うんですよね。誰それの先生に誘われたからとか、そこまでの肩を押すような、単なる告知じゃなくて、何か方法がないかなと思うんです。

【中村学芸員】　　今回の宇田川一美さんのポケットファイルのワークショップに関しては、講師の方がツイッターとか自分のＳＮＳでつぶやいてくれまして、それによる反応というのはあったんで、講師のファンの方とか講師自身が告知してくれるというと、すごく反応があるんだなというのはわかりました。実際に「このイベントを何で知りましたか」でも、「講師のツイッター」という回答された方もいらっしゃいましたし、あと、こごうちぶんこの「詩の楽しみ方を学ぶ」のほうも、こごうちぶんこ自体が地域のネットワークをすごく持っているので、こごうちぶんこに所属している市民の方が、ほかの市民の方にすごくいい授業をされる先生だよというのを口コミで言ってくださって、なので、今回は市報で見た方は１人なんですけれども、知人から聞いてという方が１０人いたので、地域のネットワークを使って告知していくというのは、すごく有効なのかなというのは、今回のワークショップを行った感じだったんですけれども。

【山村委員】　　それ、すごくいいシステムを持っていると思います。ですから、ツイッター、ＳＮＳというのも、次からアンケートに入れていくような。あるいは、口コミというか、知人から聞いてというのをもう少し細かく目を通してやっていくと、次に生かせるのではないですか。

【中村学芸員】　　そうですね。ＳＮＳだと、「詩の楽しみ方を学ぶ」も、市民の方だけじゃなくて、練馬からわざわざ来られた方とか、遠方の方も、市報だと市民しか配布されなかったりするんですけれども、ツイッターとかだと、遠方の方にもダイレクトにつなぐことができるので、館自身でそういったものを発信するというのは、なかなか難しかったりするんですけれども、館として関係のある関係者の方とかに後押ししてもらうというのは、今後も続けていきたいなというふうに感じました。

【山村委員】　　講師とか、そういうこごうちぶんこの人とか、今までのネットワーク、

経験的につながっている人については、さらに美術館関係者というファイルをつくっておいて、そういう人には広報物と招待券を一緒にして送って、何かのアクションがあるときには必ず招待出すとか、何かそういうネットワーク、地域的な関係者のネットワークをつくって、やると、関心のある人っているわけですから。また参加者もそうですよね。参加者も次また行くという可能性は高いと思うので、その辺の蓄積というのは利用するべきです。

【上原委員】　　はけの森美術館に来る、市内の方ですから、わかりづらいというか。北門はあるんですけれども、連雀通りですか、そこもちょっと車量が多いし。市立美術館として市内の方の利用が多いと思うんですけれども、自転車なり、歩きなり、バス、そういうとき、どこで降りればいいとか、入っていけばいいかというか、そういうのがちょっと。もう少し。

【平岡委員（館長）】　　看板の話は結構前から、いろんな方からお話をいただいていています。看板は、１０年ぐらい前から、道路沿いにあるんですけれども、ちょっと凝った看板にしたかわりに、わかりづらくなってしまっているんですよね。それも今後、館全体で考えなければという話にはなってはいるんですけれども、なかなか看板の設置とか案内が実現しなくて、悩んでいるところではあります。

【上原委員】　　私は自転車をいつも利用しているんですけれども、坂道を持っておりるのもちょっと怖いし、坂を上がるのも、きついんですね。ですから、申しわけないと思いながら、北口のところの狭いところに、邪魔にならないところに置かせていただきました。日中のあいているときでしたら、自転車を北門に置いて、下の階段から上がってくるという利用者さんも、結構楽じゃないかなと思うんです。ですから、北門のところに少し自転車置き場みたいなのをつくっていただければ、すごくありがたい。

【鉄矢会長】　　最近のママチャリは重いですからね。下までおろすと、また上がるの、大変ですから。

【平岡委員（館長）】　　ありがとうございます。

【山村委員】　　上原委員が今言われた喫茶店の関係は。

【平岡委員（館長）】　　喫茶店は以前、オーブンミトンという、市内でお菓子を中心にやってらっしゃる方が、レストランも同時にやってらっしゃっていて、そちらが、この館が１０年前にスタートするときに、喫茶棟としてあの建物を使うということで公募したところ、エントリーされて、この間やってこられたんですけれども、ここのところで１年ぐら

い前から、ここで一区切りとして退きたいというお話をいただいておりました。今年３月までやっていただき退去されましたので、今、次の業者さんを探すための準備をこれからするところでして、遅くとも今年度中には次のところが決まって、また入ってくれるような形になればいいなと思って、今、進めています。

【鉄矢会長】　　さっき鑑賞プログラム、「さがして・あつめて・くっつける　中村さんの絵」のところの子供たちの様子なんですけれども、何か簡単な持ち運びのできる踏み台があったら、楽しいんだろうなと思って。子供の視点から見ると、ちょっと絵が高いんだろうなと思っているんですね、鑑賞するのに。椅子の上に立ったりしながらだと、大人はこんなふうで見ているんだよというものがあると、ちょっと楽しかったのかなと思ったりしました。

【事務局】　　ありがとうございます。ちょっと今後のそういうイベントのときの参考にしたいと思います。

【鉄矢会長】　　さっきの写真を見ていて、子供にはちょっと高い絵だろうなと思って、ずっと下から見ることになるので。

【鈴木学芸員】　　そうですね。高さとかが、いろいろ悩ましいところがあって、とりあえず今回はあの高さにしたんですけれども、そのあたりは今後の課題で、いろいろ検討したいと。

【鉄矢会長】　　いつかこどもの日だけ、全部展示が低い日とかやってみたいですね。今日はこどもの日ですと、展示が全部低い日があって、楽しい日とか。あと、そういう日に限って土足禁止して。子供って、しつけがちゃんと実はできていて、大人は美術館で座っていいよって、簡単に座れるんですけれども、子供は、土足のところでは地面に座らない子が多いんですよ。意外にちゃんとしつけができていて。でも靴ぬぐと、みんな、すぐ座るんですね。そういう意味でいうと、この部屋も、こう本棚があって、下のほうまで本は入って、いかにも地面に座りそうなんですけれども、あんまり地面に座らないんじゃないですかね。

【中村学芸員】　　地面に座ってほしいときは、マットがありまして、それをここら辺につけています。

【鉄矢会長】　　そこの上足、下足のルールがものすごく日本の子供はしっかりしていますね。まだマットがあれば、そうなんですよね。そういうのがあると、鑑賞も、もっと子どもがじっくり見ている感想になるのかなという意見です。感想です。

ほかにございませんでしょうか。では、次が２８年度の事業予定と予算について、事務局からご説明をお願いします。

【鈴木学芸員】　　では、先ほどの資料１の２ページ目の下のほうを見ていただきたいのですが、今後開催予定の展覧会・ワークショップ等といたしましては、展覧会は、２つ予定しているところです。まず１番目としましては「笠間日動美術館所蔵パレット展」、仮のタイトルですけれども、会期は平成２８年８月中旬から９月中旬を予定しています。この展覧会は、日動美術館が所蔵されているパレットを展示しようというものなんですけれども、当館の所蔵作品などと一緒に中村研一等の画家とほかの画家との交流などを、また対応関係であるとか、どのような影響などがあるかということをたどるというような内容です。

また、２つ目の企画展といたしましては、「郡山市立美術館所蔵近代イギリス風景画展」、これも仮のタイトルなんですけれども、会期といたしましては１０月７日から１２月１８日ごろ、まだこれも確実ではないんですけれども、このような日程で考えております。郡山市立美術館はターナーとかサミュエル・パーマーとか、イギリスの近代風景画の名品を多数、お持ちなんですけれども、今回はそういった作品をお借りして、また中村研一の風景画の作品もあわせて展示し、どのような対応関係があるのか、そういったことを見ていくような展覧会にしたいと考えております。両方の展覧会の準備を今、進めているところです。

【中村学芸員】　　続きまして、（２）教育普及事業ですが、①鑑賞教室ということで、こちら鑑賞教室というものが、当館では定番のプログラムとなっておりまして、市内９校の小学校の４年生を毎年、招待しております。始めたのが平成１８年からだと思いますので、先ほどお話しした中学２年生の子が、小学４年生のときに来たことがあるというのは、このつながりの話なんですけれども、全校全クラス、こちらのほうに来ていただいて、学芸員の説明を受けながら鑑賞するというような内容となっております。

今年は５月１３日（金）に南小学校の鑑賞教室がありまして、それを皮切りに９月４日が前原小学校、９月１５日が東小学校、１１月１６日（水）が緑小学校、１１月２４日、第一小学校、１２月６日、第三小学校、１２月９日、本町小学校、１２月１３日、第四小学校、１２月１６日、第二小学校ということで、今のところ、こういったスケジュールを組んでおります。

ただ、先ほどご説明あった展覧会のスケジュールが、まだ細かく決まっていないところ

がありますので、それに合わせて、どういった展覧会を説明するかというのが決まっていくと思いますが、９校、今年も来ていただいて、美術館のこと、また作品のことなどを知っていただきたいなというふうに考えております。

また、鑑賞教室にあわせて、実際に先生たちから要望があれば、出張授業なども昨年度は行いましたので、そういった形で、より深く連携していけたらいいなというふうに考えております。

教育普及事業に関しては以上でございます。

【鈴木学芸員】　３番目のその他といたしまして、また作品貸出が今後あります。兵庫県立美術館、広島市現代美術館で開催される「１９４５年±５年」という展覧会なんですが、この展覧会に当館が所蔵していて、今、展示室に展示している作品ですけれども、「シンガポールへの道」という作品が、お貸しする予定でいます。

今後の予定のワークショップ・展覧会等についてのご報告は以上になります。

【鉄矢会長】　すみません。予定といいましたけれども、予算については。

【事務局（吉川）】　本来ならば、４月から新年度の予算が決まっておりまして、今の時期は夏とか秋の展覧会の準備をするところなんですが、今年度が小金井市の予算が暫定予算というものになっておりまして、現在、４～５月分の２カ月の予算のみが確定しておりまして、６月以降の予算はまだ確定していない状態です。ですので、この予定の中についても、現時点で用意はしているんですけれども、予算はまだありませんので、開催を含めて、確定ができないという状態になっております。いつ本予算になってもいいように、心づもりだけはしているんですけれども、せっかく１０周年なのにこの事態というところで、私どもも困ったなという状況にはなっておりますが、今、そんな状況ですので、本来ならば、ここで、成立した予算の内容について、ご説明をさせていただくんですけれども、今年度、そんな状況ですので、予算確定した以降の運営協議会で、この説明をさせていただきたいと思っております。

【鉄矢会長】　ですので、今、学芸員からの説明は、予定の予定ということですね。

説明は終わりましたけれども、何かご質問、ご意見等ありましたら、お願いいたします。

【山村委員】　展覧会のほうを予定としてお聞きしたいんですけれども、日動美術館というのは、近代日本洋画家のパレットをたくさん所蔵しているので有名なんです。というわけで、この展覧会は日本近代洋画の有名な作家の人たちのパレットと、それからその作家の油絵とを両方展示するというような感じでやるんですか。

【鈴木学芸員】　　そういったパレットと、そのような形の流れでは一応考えているんですけれども、油絵は難しいと考えています。

【山村委員】　　油絵は無理なんですか。

【鈴木学芸員】　　無理ですね。そういうこともあり、パレットという企画を考えています。

【山村委員】　　パレットのみですか。

【鈴木学芸員】　　のみです。

【事務局（吉川）】　　当初は油絵を想定していましたが、予算が確定していませんので。

【中村学芸員】　　中村研一と関係のあった作家のパレットもたくさん所蔵していますので、中村研一の関係のある方のパレットをお借りして、当館で持っている関連作家の作品を展示したり、書簡もあったりするので、それもあわせて展示できたら、研一とのつながり、近代洋画の流れも見えるかなというふうに考えて。

【山村委員】　　でも、一般的にはパレットって、絵を描くためのものだから、できた絵がないと、やっぱり寂しいですね。もし無理だったら、せめて図版というか何か。印刷物でもいいから。やっぱり色というのは一番大きいですよね。このパレットの組み合わせから、こういう色が出たとか。

【平岡委員（館長）】　　現在の予算の状況から、現時点で考えられる企画としては、そのような形となると考えています。

【鉄矢会長】　　そのほかのご質問ございますか。

この議題については、これで終わりで、日程調整をしたいと思います。

（委員間にて候補日を日程調整）

【鉄矢会長】　　では、８月２３日と３０日を候補日としておきます。

ほかにありますでしょうか。

【上原委員】　　回顧展が終わった後、この美術館での展示はどのように。

【平岡委員（館長）】　　美術館のほうの展示については、もともとここの館は常設展というのはやっていないので、次の展覧会が７月か８月ぐらいから、先ほどちょっと予定の予定ですというふうに申し上げたパレット展を予定していますので、８月の中旬ぐらいから行われるような形になるので、二、三カ月ぐらいは準備のためにお休みというような形にはなります。

例年ですと、大体６月にフリーのワークショップが１回、６月か７月に１回やって、そ

の後、７月から展覧会をやっていくというのが、いつもの流れなんですけれども、先ほど申し上げた予算の関係があって、半月から一月ぐらい、スタートが後ろ倒しになってしまうという状況が今あります。

【事務局（吉川）】　　通常でも、この館は、実は学芸員が２人しかいなくて、３人で運営していますので、ずうっと展覧会を続けることはできないので、１回、展覧会をやると、１カ月半ぐらいお休みして、その間に展示替えをして、次の展覧会の広報準備や、学芸員が調査に行ったり、研究をしたりして、次の展覧会に備えるということで、１回、展覧会をやると、１カ月ぐらいは必ずお休みになります。そういう運営の方法をして、ここはやりくりをしてやっているので。たまたま休館の時期にいらっしゃると、いつも閉まっていると言われてしまうんですけれども、そういう人員体制ですので、長めの休館をはさんだ動かし方をして、ここは運営しています。

先ほど、展示ももっといろんなお部屋で全部やったらというふうな上原委員からのご意見いただいたんですけれども、実は今ここ、会議しているこの場所は、中村研一のご遺族の奥様が最初お住まいになっていたんですね。ですので、２階のスペースは住居部分でしたので、ここの部分はまず使えなかったということと、今、展示しているお部屋には特殊な空調が入れてありまして、常に温度と湿度を同じにする。その設備が今、展示室になっているところしかありませんので、絵画についてはそこしか飾れない。ここはワークショップルームに改装しましたので、ワークショップはここでやることができますし、真ん中、今、通っていただいたサロンの部分は、展示によっては空調が関係なく展示できるものについては、彫刻とかそういうものを飾るようなときは、そこの部屋も使って、展示することがあります。あとはやはりバックヤードがないと、美術館は立ち行かないので、どうしてもバックヤードが展示室の倍ぐらいはとる必要がありますし、収蔵庫とか倉庫とかそういうものもあるので、展示のスペースは、今ある部分でやっていかないといけないというのがありますので、そのあたりをご理解いただければと思います。

【平岡委員（館長）】　　今、ちょっと話があったんですけれども、もともとこの美術館の成り立ちというのは、中村研一の奥様が財団法人を立ち上げてスタートして、それを最終的には丸ごと市役所のほうに寄附していただいたんですけれども、そのときに、今、吉川のほうで説明があったとおり、ここにお部屋があって、ここに住んでいらっしゃいました。その後、改修して、こうなったんですけれども、改修する前は、このお部屋がなかったので、ワークショップをやる場所がなくて、状況によっては展示室のスペースのすき間でや

ったりということもあったらしいもんですから、展示を一度してしまうと、展示したものを動かしづらい状況があるので、それでお部屋の使い分けではないんですけれども、そういう形になってしまうというのが、美術館的にはそういう形になってしまうという状況はありますので。

【上原委員】　茶室もありますよね。あそこもいつも閉まっているんですよね。

【平岡委員（館長）】　茶室は、以前は貸し出しなどもしていたんですけれども、建物として結構な年数がたっているので、なかなか貸し出しが難しくなってきまして、安全のためも含めて、今、閉めてしまっているんですね。もし使うということになると、ある程度のお金をかけて、修復等をやらないと、ほかの方に入っていただくのは難しい建物の状況に、なってしまっています。いい建物なので、使ったほうがというお声はいただくんですけれども、そんな状況があって、我々もそこのところをやらないと一般に使えないのが、じくじたるところがあります。

研一がもともと住んでいた家のほうは今、喫茶棟として一時使っていたので、そこはそんなに期間をあけないで、次の方に入っていただければ、また再開できるとは思っています。

【事務局（吉川）】　茶室は一応、修復して文化財として活用していきたいという意向は持っておりますが、修復が延伸という状況になってしまっています。

【平岡委員（館長）】　建物なので、手をかけていくという話になると、１００万円単位ではなかなか難しい。もうちょっと桁が上がってしまうようなことになるので、頑張ってはいるんですが、なかなか難しい状況でもあります。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。ほかにありますでしょうか。

【平岡委員（館長）】　私のほうから１点、よろしいでしょうか。冒頭、職員紹介させていただきました。そのときは井上のほうが不在にしておりましたけれども、職員紹介をさせていただいたんですけれども、このたび、２名ほど、今月いっぱいで退職する者が出ましたので、ここで皆様に、ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

まず、井上のほうからお願いします。

【事務局（井上）】　昨年４月に当美術館に事務としてお世話になっています。ちょうど１年と１カ月ですが、ようやく仕事にもなれて、これからだというときなんですけれども、諸事情がございまして、今月末をもって退職ということになりました。

この間、皆様には大変お世話になって、感謝を申し上げますとともに、当美術館の今後

の発展をお祈りしまして、簡単ではございますけれども、ご挨拶とします。どうもありがとうございました。

【平岡委員（館長）】　　もう一人、中村学芸員が５月末で退職いたしますので、あわせて挨拶をお願いします。

【中村学芸員】　　本日、皆様と初めてお会いして、いろいろとご意見などをいただいた折に、こういった退職のご挨拶をするのは、ほんとに心苦しく感じております。ただ、私、ここ、３年前に来まして、ちょうど５月１日からの勤務で、いきなり７月のワークショップの担当をして、そこからほんとうに、私は今まで学芸員として勤務したことがなくて、転職はＯＬとして一般企業で働いておりまして、ここで初めて来て、右も左もわからないまま、ただいろいろな経験をさせていただいて、特にここは学芸員としての展示だけじゃなくて、教育普及だったり、受付に入ったり、監視に入ったり、お庭の様子を見に行ったりとか、ほんとに一から十までいろんなことをさせていただいて、そういったものが全部、今、自分の地肉になったのかなというふうに感じております。

私自身、もともと大学でも社会学部で、大学院でも勉強していたのが公立美術館におけるソーシャル・インクルージョンということで、社会に開かれた美術館とはどういったものかとか、コミュニティ・ミュージアム、先ほど鉄矢先生がおっしゃっていたようなそういった美術館、どうしていけばいいのかなというのを勉強していて、ここではまさにそういった姿を目指している美術館だったので、ほんとに勉強になると思いましたし、自分が勉強していたことが実際問題、いろんな予算の制約とか限りある条件の中で、できること、できないこと、たくさんあるんだなというのは身をもって感じました。

そういったバックグラウンドもあったので、学芸員として例えばその研究において、自分の名をもっと出していくような研究というのは、正直できなかったんじゃないかなというふうに後悔は残るんですけれども、逆にそういった学芸員らしくないような私をおもしろがってくれて、小学校の先生とか一緒に連携授業をしようというふうに声をかけてくださって、３年間同じクラスとかかわったり、そういった貴重な経験をさせていただいて、ほんとに勉強になったなと思っております。ほんとに人に恵まれて、市民の方とか委員の方とかいろんな方の支えがあって、やってこれたのかなと思っています。

ここのよさというのは、そういう周りの市民の方が助けてくれて、活発にいろいろ動いてくれているというところもありますし、ある意味、都内の美術館とは違う敷居の低さみたいなのも、ここにはあったりして、私がすごく印象深いのは以前、大根を持った方が展

示室に入ろうとしていて、さすがに大根は持ち込みできないんですけれども、大根を持ったまま入れる美術館って、都内考えても、ほとんどないと思うんです。何かそういった温かさとかコミュニティ等のつながり。ちょっと大根を買いに行った後に見ようと思ってもらえるという美術館って、ほとんどないと思うんです。それは大きな個性だと思いますし、ここの小金井市のこの場所にある美術館だからこそだと思っております。そういったよさを今後もどんどん周りに伝えていけたら、小金井市民にとって大切な宝物になれるのではないかと思っています。

いろいろと役に立てないこともたくさんあったとは思うんですけれども、ちょっとでも私の積み上げたものが、今後の発展につながればいいなと思っております。簡単ながら退職の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。そのほかはないと思いますので、これで、平成２８年度第１回小金井市はけの森美術館運営協議会のほうを終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

―― 了 ――